

校長あいさつ — 東日本大震災に思う —

校長 成澤 満



平成23年度は、大きな悲しみと絶望、そして日本人という国民の真価が問われる大きな試練の中でのスタートでした。3月11日に三陸沖で、マグニチュード9.0という観測史上世界4位の巨大地震が発生し、未曾有の被害に加え、深刻な原発事故・放射能漏れのため、何十万という人々が今現在も住み慣れた地から避難せざるを得ない状況が続いています。本県は幸いにして大きな被害は有りませんでした。これを「対岸の火事」、「他人事」としか受け止められないことは、人間としてあまりにも情けないことです。

たとえ大したことはできないにしても、被災者の心情やその苦しみを推し量り、何かできる事はないか、など連帯の気持ちを持ち続けることは、大きな意義のあることだと思います。「他人のために力になる」という気持ちは、自己中心と利己主義とは対極にあることです。利己的で独善的であると、視野が狭く、自分勝手に物事を見てしまうことになり、知識や考え方は偏狭になり、思春期の成長には欠かすことができない多くの吸収を自ら拒否してしまうことになります。視野を広く持ち、素直な気持ちで相手を思いやり、小さなことであっても何か人のために手助けできる人間は、豊かな想像力と人間性に富み、前向きな気持ちで自分の将来を描くことができる人間です。そして、その実現に向け、本人が持っている資質や能力を最大限に開花させることができる逞しい人間です。私は、西高生を、そのような人間に育てたいと思っています。

入学式

4月8日(金)、入学式が行われ、平成23年度入学生、男子75名、女子124名の計199名が、新たに本校に入学しました。新しい制服に身を包んだ新入生は少し緊張した面持ちでしたが、担任から名前を読み上げられると、しっかりと返事をし、西高生活の第一歩を踏み出しました。新入生代表として佐藤優晟くんが誓詞を読み上げ、新入生一同これからの活躍を決意したことでしょ。



生徒会長より

生徒会長 柴田 慈仁

私たちが主体となって生徒会を運営するようになってから、もう半年が過ぎました。そして、この4月から新たに1年生を迎え、新体制となりました。

昨年の秋から今までの半年間を振り返ってみると、「あいさつ運動」や「服装についての呼びかけ」など、実施したいことはたくさんありましたが、時間の確保ができず不十分に終わっていました。

これからの半年間は、昨年度の反省を踏まえて、限られた時間のなかで確実に効果のある活動をしたと考えています。行事などについては、今年は体育祭があります。歴史の浅い行事ではありますが、内容はとても実のあるものにしたと考えています。

最後に、私は対面式での新入生のあいさつにあった「名門」というフレーズがとても印象に残っています。自分たちは学校生活のなかで常に意識していなくても、周囲の方々からはそのように見られていることを忘れずに、よりよい学校を全校生徒一丸となってつくっていきましょう。

対面式・部紹介

4月11日(月)、新入生と在校生の対面式、引き続き部活動の紹介が行われました。

対面式では、生徒会長から歓迎の言葉が贈られ、それに応えて新入生代表の長南敦也くんが西高生活での抱負を力強く述べました。また、生徒会執行部より、西高の生徒会行事や学校行事の紹介を映像も交えて行われました。

部紹介では、新入部員獲得のために、各部がそれぞれに工夫を凝らした発表を行いました。中にはユニークなものもあり、緊張した面持ちだった新入生も、次第に笑顔で先輩の紹介に見入っていました。



被災地の復興を願って



このたびの東日本大震災に際し、本校でも、生徒会、福祉委員会、JRC部を中心に、募金活動が3月の登校期間中に行われました。多くの生徒・職員から募金をいただき、総額57,894円が集まりました。募金は山形新聞・山形放送を通じて、被災地に贈られました。

また、英語部は、救援物資の募集活動を行い、文房具などの学用品を酒田市を通して寄付しました。

1日も早い被災地の復興と、被災された方々のご健康を、全生徒・全職員祈っております。

本校のホームページアドレス <http://www.sakatanishi-h.ed.jp>